

大湾区情報 No. 56

グレーターベイエリア情報 発行：2023年3月28日



【今号のトピックス】

以下のリンクをクリックすると各記事のトップに移動します。

[【上海・深圳・香港ストックコネクト3月13日より拡大、香港ストックコネクトに外資企業組み入れ】](#)

[【ボーダー往来完全再開 香港、新たな繁栄を迎え入れる】](#)

[【2022年大湾区9都市輸出入総額、中国全国の18.9%を占める】](#)

【上海・深圳・香港ストックコネクト3月13日より拡大、香港ストックコネクトに外資企業組み入れ】



香港証券取引所は、2023年3月13日より、中国本土と香港の株式市場における取引の相互接続スキーム（以下「相互接続」）における両地証券取引所が相互接続可能な対象株式銘柄をさらに拡大し、関連基準を満たす香港の主要外国上場企業の株式が香港ストックコネクトに含まれることになると発表しました。深圳証券取引所の最新発表によると、3月13日に中国本土側の資金を受け入れる外

資企業は、サムソナイト、ロクシタン、ナガコープ、YANCOAL AUSTRALIA などが含まれています。さらに、スタンダードチャータードグループも含まれていません。

税務手続き上の事情によりルサル、プラダは対象外

上海証券取引所及び深圳証券取引所が発表した最新の香港ストックコネクト対象銘柄リストには、ロシア系企業のルサル並びにイタリア系企業のプラダが含まれていません。

深圳証券取引所は、個々の外資企業が、外国政府への金融取引税の支払いや、投資家への異なる税率での配当の必要性など、税金や企業行動の面で、既存の香港ストックコネクト銘柄とは異なる特別な要件を持つ場合がある、と説明しています。現在の市場の業務・技術システムにおいては、上記のような特別な取り決めに対応できないため、現在の深圳・香港ストックコネクト対象銘柄の拡大期間中においてはルサルとプラダの組み入れは保留される予定で、関係者たちは、これらの作業を迅速化するため引き続き懸命に取り組めます。

ノースバウンド取引では、香港証券取引所は、上海証券取引所に上場している **598** 社の銘柄、深圳証券取引所に上場している **436** 社の銘柄をチャイナ・コネクト（中華通）証券リストに追加し、合計 **1,034** 社の **A** 株が新たに追加となると発表しました。

ハンセン指数サービス社が作成したハンセン外国企業総合指数によると、現在、国際企業の構成銘柄はプラダ、サムソナイト、ルサルなど **12** 社の銘柄のみとなっています。ユニクロの親会社であるファーストリテイリングやマニユライフ・ファイナンシャルなど一部の構成銘柄は、香港にプライマリー上場していない、もしくは時価総額が **50** 億香港ドル未満のため、当面は香港ストックコネクトには含まれない見込みです。

香港証券取引所：相互接続を大幅に強化した 1 年

香港証券取引所グループの最高経営責任者欧冠昇氏は、今回ストックコネクトのノースバウンドとサウスバウンドの取引銘柄範囲が同時に拡大したことは、中国と香港の市場と大多数の投資家にとって朗報であり、相互接続の継続的な開発と強化における新たな重要なマイルストーンであり、香港証券取引所と本土のパートナーおよび両地の規制当局との緊密な協力と周到な準備の結果である、として以下のように述べました。

「今年は相互接続を大幅に強化した 1 年であり、仕組みをさらに強化・拡大し、香港・本土市場の魅力を向上させ、中国と世界をつなぐために、市場のすべての関係者と協力していきます。今後数か月のうちに、さらに良いニュースをお届けできることを楽しみにしています」

【ボーダー往来完全再開 香港、新たな繁栄を迎え入れる】



3月6日、香港と中国本土のボーダー往来が全面的に再開されてから1ヶ月を迎えました。この1ヶ月間において、香港は全力で発展に努め、日常を取り戻しながら力を蓄え、飛躍的な前進を遂げてきました。香港と中国本土の経済、観光、ビジネス交流などのアクティビティが次々と開催され、人と物の流れが盛んになってきています。

各イミグレーションでの往来が再開されて以来、ボーダーを越える旅客数は着実に増加しています。香港移民局によると、2月6日の全面往来再開以来、この1ヶ月で香港出入境旅客数は1,000万人を超えました。

その中でも、広深港高速鉄道の香港区間が1月15日に運行再開してから2月末までの間の45日間で出入境した乗客数は100万人を超え、1日の平均乗客数は延べ約23,000人となりました。3月11日から長距離路線が徐々に再開され、香港の旅客数はさらに増加することが見込まれます。

香港の運輸及物流局局長（Transport and Logistics Bureau）である林世雄氏は、香港国際空港の離発着便数が現在、コロナ前の50%まで回復した、と述べました。

往来の全面的再開後、香港の良さを改めて世界に伝え、香港での新しいビジネスチャンス、新しい旅行体験、新しいイベントを促進するための一連の活動がスタートしました。香港観光協会（Hong Kong Tourism Board）は、世界の観光客と香港住民に50万枚の無料航空券をプレゼントするキャンペーンの実施を発表し、当キャンペーンは3月1日から順次開始されています。香港空港管理局の最高経営責任者である林天福氏は、今回の航空券プレゼント・キャンペーンにより、少なくとも150万人のインバウンド客が香港を訪れると予想しています。

また、3年前と比べ、香港に新しいランドマークがたくさん誕生しました。新しくオープンした香港故宮文化博物館や現代国際視覚文化博物館 M+など、観光客に対してより斬新な体験を提供することができます。

そして香港政府は3月1日、コロナ感染防止目的のマスク着用義務を全面的に廃止し、多くの市民や観光客が笑顔を見せ出会うことができるようになりました。同日開幕を迎えた香港国際ジュエリーショーでも、36の国と地域から2,500以上の出展者が集まりました。

往来の全面的再開に伴い、香港と中国本土の間、企業間、政府部門間における「双方向交流」も活発になり、新たな活力が引き続き生まれています。

2月20日より、大湾区の中国本土側都市から香港、マカオを往来する人材に対するの出入境承認に関する試験的政策がスタートしました。6つのカテゴリーに属する大湾区本土都市の有資格人材は、中国本土・香港・マカオを行き来できるだけでなく、より長期間滞在し、より多く往来をすることができるようになります。

香港行政長官である李家超氏は、2月23日に就任して以来初めて、代表団を

率いて広州と深圳を訪問しました。本土のさまざまな企業や組織が投資誘致のために香港を訪れ、また、上海と天津は香港との双方向投資を拡大するために南下しています。

【2022 年大湾区 9 都市輸出入総額、中国全国の 18.9%を占める】



中華人民共和国海関総署広東分署によると、「大湾区発展計画概要」発表以降の 4 年間において、広東省内各税関は積極的に通関改革を推進し、管理監督モデルの最適化、規則及びメカニズムの統合化推進、主要プラットフォームの建設に対応し、大湾区建設関連の課題の実施に全力を挙げています。さらに香港・マカオの関連部門との連絡・協力も強化し、リソース集約・有効活用と通関・通行方面の円滑化に役割を發揮し、広東省の質の高い発展を支援しています。2022 年、大湾区 9 都市の輸出入総額は 7 兆 9,400 億人民元となり、広東省の輸出入総額の 95.6%、中国全体の輸出入総額の 18.9%を占めました。

航空貨物の通関を容易に 大湾区における国際空港センター発展を促進

海関総署広東分署自由貿易区および特別区開発処の長官黄祖活氏によると、大湾区は7つの輸送空港と11の総合保税区を有し、税関の革新的な管理監督モデルという優れた条件を持ち、総合保税区の保税加工、保税物流、貨物貿易、サービス貿易、バーチャルイミグレーション、オフライン支援ゾーンなど機能の利点を十分に活用し、航空貨物の通関を容易にしています。

深圳税関は「MCC(Multi-Country Consolidation)前海」という新しい物流モデルを構築し、大湾区空港クラスターの前海サービスセンターを建設しました。香港、深圳、広州の三地区の空港と直結し、企業が前海総合保税区でカーゴ予約、梱包、流通、パレタイズ、積み込みの全過程をワンストップで完了することをサポートします。同時に、マカオ空港協力プロジェクトを積極的に推進し「中国全土から集荷ー前海で混載ー空港で直行便」の輸出入貿易エコシステムを実現します。現在までに、918億700万人民元の貨物がMCC前海サービスセンターにて混載・仕分けが行われています。

黄浦税関は、東莞市の虎門港総合保税区に空港センター税関監督作業所を設置し、香港空港の関連機能とサービスを東莞に拡張し、税関監督と航空セキュリティチェックおよび貨物処理、パレタイズの統合を実現しています。東莞空港センターから出境、香港国際空港経由で輸出される貨物は、東莞におけるワンストップでのセキュリティチェック管理の対象となり、香港国際空港での第二次セキュリティチェックが不要となり、クロスボーダー事前セキュリティチェックが正にここに実現しました。

広州税関は、大湾区空港共有の国際貨物輸送センター（南沙）の建設を支援し、南沙イミグレーションでのワンストップ通関・検査手続きを経て広州白雲空港に輸送し迅速に輸出を行うことで、プロセス全体にかかる時間を2時間以上短縮することができました。

黄祖活氏は、税関の革新的監督モデルの下、出境貨物クロスボーダーセキュリティチェックが正に実現し、大湾区の総合保税区和香港、広州、深圳の空港間往來の物流をよりスムーズにし、大湾区の国際航空輸送資源の補完性、相互接続、相互運用性を促進し、大湾区内空港施設の集積効果をさらに活かし、企業のコスト削減と効率アップ、貨物の二次保管、処理、パレタイズにかかる時間とコスト約 30%の削減に貢献した、と紹介しました。

【参考資料】

- ・ [上海・深圳・香港ストックコネクト 3月13日より拡大、香港ストックコネクトに外資企業組み入れ \(香港経済日報 3月3日\)](#)
- ・ [ボーダー往來完全再開 香港、新たな繁栄を迎え入れる](#)
- ・ [2022年大湾区9都市輸出入総額、中国全国の18.9%を占める](#)

青葉【WeChat公式】のフォローをご希望の方は、
右記のQRコードから登録をよろしくお願いたします。
(WeChatアプリにて、QRコードをスキャンしてください。)

[大湾区ニュースレター特集ページへのリンク](#)

また「大湾区情報」だけでなく、中国、香港のニュースや最新制度情報も WeChat の公式アカウントに掲載しています。



=====

[最新ニュースページ](#)で過去に発行したニュースレター、及び香港・中国本土最新ニュースをご覧になれます。

ホームページと共に、SNSでも随時情報を発信してまいりますので、是非ともフォロー、いいね！をお願いいたします。



質問等お問合せ先

青葉監査法人・青葉ビジネスコンサルティング・青葉法律事務所
担当: 新井 茂 <s.arai@aoba.com.hk>

=====